第9回登別市総合計画第3期基本計画市民検討委員会まちづくり部会議事録

◆ 開催日時　　平成２６年１０月１７日（金）　18：30～　20：00
◆ 開催場所　　第１委員会室
◆ 出席部会員　部会長　中原　義勝
　　部会員　山田　正幸
　　稲葉　一彦
　　松本　崇之
　　堀井　貴之（市庁内検討委員会 部会長）
　　【総務部次長】
◆ 欠席部会員　副部会長　渡部　雅子
　　部会員　田中　寛志
　　工藤　隆行
　　川島　雅司
　　成田　育磨
　事務局　　上野主幹、西川原主査、菊地主査、秋田主任、田中担当員
◆ 議題　　「第６章担いあうまちづくり」に関する考え方及び体系図について

⦿部会長

今日は会議案内にありますように「第２節　【交流によるまちづくりの推進】」の中の「Ⅲ定住の地を求める人の勧誘と定住支援」について、話し合いたいと思っています。

まずは現状のお話をいただき、話を詰めていきたいと思います。

⦿事務局

体系図の「★第２節　【交流によるまちづくりの推進】」については、前回お話しした広域行政や４回目の部会でお話しした国際化の推進がありまして、その３番目として「Ⅲ　定住の地を求める人の勧誘と定住支援」があります。

最近は人口減少問題がクローズアップされていますが、何とか人口を増やそうですとか、まちの魅力を創出していこうというところがここに位置付けられています。

この項目にぶら下がるものが２つありまして、「１　移住・定住の受け入れ態勢の充実」「２　人口流出の阻止・都市機能の充実」とあります。

まず１についてですが、さらにぶら下がるものとして「①　移住・定住相談体制の整備」「②　移住・定住の情報提供」「③　移住体験ツアーやリピーターの受入れ」ということですが、第２期の基本計画のころは団塊の世代の退職が社会的にフォーカスされていて、第

２の故郷を求める動きが首都圏で多く見られたため、田舎暮らししてみませんかとお誘いするのですが、そのターゲットの基本は団塊の世代、定年退職された方でした。

そのような方を対象に移住に関する相談体制や「ちょっと暮らし」という形で登別に１～２週間住んでいただくような事業を行っています。

現在、庁内で打ち合わせをしている内容では、団塊の世代の退職も一段落し、まちの元気を生み出すためには現役層も必要ということで、ターゲットを団塊の世代にはとらわれずにやりましょうと話をしています。

ただし、雇用の確保など様々な課題もあるので、一朝一夕にできるものではないですが、人口減少に対応するために行政として何とかしていかなければならないということで、この「移住・定住」というキーワードはとても大切な内容だと思っております。

③は少し毛色の違うものが書かれているのですが、そうはいっても観光のまちなので、ちょっと暮らしで１～２週間来ていただけるのであれば、長期滞在型の観光のようなものにも若干色気を出しながら書かれた体系図になっています。

現実として、ちょっと暮らしの施設はさぎり湯の上の栗林ビルにウィークリーマンションがありまして、そこが対象施設なのですが、我々としても市の中心部に住んでいただいて初めて移住体験だと思う部分もありますので、今は不動産業者と連携を模索しながら温泉以外のところも体験できる場を作っていこうと動いています。

ただ、今は栗林ビルで温泉入浴し放題というメリットも付けながら本州地区に売り込みをしています。

今回、大阪で行われたフェアに参加してきました。前回お渡しした移住パンフレットを配りながら、たった一日でしたが、５０組以上と話ができて、感触の良い方にはこれから営業活動をかけていこうと思います。

続いて２番についてですが、この下には「①定住自立圏の形成」がぶら下がっています。聞きなれない言葉だと思いますが、これは平成の大合併を終えた後に広域行政をさらに進めよう、人口が減少しないようにまちの魅力を高めていきましょうということで、総務省が進めている制度になります。

内容は、一つのまちでできることには限りがあるので、圏域で都市機能を充実させていきましょう、それで中心市宣言というものをその地域で一番人口の多いですとか中間人口の高いところが行います。

この圏域で言えば室蘭市ですが、我々、周辺市としては図書館や市民会館、プールなどの施設をすべて用意するという行政運営は財政状況からも難しくなることも考えられるので、中心市の都市機能を活用させてもらいながら、圏域としての魅力を維持充実させていこうという取り組みです。

これは現に動いている計画で、様々な協定事項があり、医療がわかりやすいですが、室蘭にある市立病院や大病院を活用させてもらいながらですとか、そのような形で様々な動きをしています。

例えば、室蘭市の中島町の中学校が廃校になりまして、そこに子育て支援に重きを置いた集会施設を図書館などの機能も含めながら作ろうとしているのですが、まだ完成していないので定住自立圏には位置付けていませんが、圏域で使えるようにして周辺市を含めた都市圏としての魅力を高めていきましょうというのがここになります。

この施策体系につきましては、若干観光に色気を出しつつも移住定住の促進と地域の魅力を高めていこう、それは広域での取り組みも含まれるというのがこの体系図の中に位置付けられている状況にあります。

⦿市庁内部会部会長

大きな柱が２つあるので、１つずつ進めた方がいいと思います。

⦿事務局

何でも相談できる窓口があったらいいですよねというところで、移住相談、ワンストップサービスを提供していて、移住したいという方のニーズに対応できるように行っています。

ただ、やはり住む場所を変えるというのは勇気がいることですので、できるだけその不安を取り除くような趣旨を含めて今回パンフレットを作成しました。

⦿市庁内部会部会長

実際移住した方はいませんが、ちょっと暮らしをされた方はいる。

⦿事務局

ワンストップ窓口を利用して移住された方は一組二名いることは把握している。

ただ、このぐらいの人口のまちなので、転入者は当たり前に何千人も来ているが、把握している方はまだ少ない。

今年度からは大阪のフェアにも参加したので、そういう人を一人でも増やしていきたいと思っている。

ちょっと暮らしは結構いるが、観光目的ではと思う方も確かにいます。

道内の色々なまちで取組んでいるので、制度を活用して渡り歩いている方もいる。

期間は１～２週間が一般的だが、当市は一週間以上としている。

このまちへ移住をしたいのであれば冬の登別など辛い部分も見てほしいが、どうしても７～８月に集中しているので、避暑目的と感じる場合もある。

⦿部会員

ショートステイの問合せは結構あるのか。

⦿事務局

ありますが、ここ最近はどうしても７～８月に集中してしまうので、空き室がなく断るケースも多い。そこで宅建協会や不動産会社などと協力しながら、この圏域にはウイークリーマンションが少ないものの、それらを紹介して登別のまちを体験してもらいたいと考えている。

⦿部会員

空き家は利用できないのか。

⦿事務局

権利関係が難しいのと、来られる方は旅慣れしていて、家具家財の貸与が必要になる。

細かい話をするとまな板まで貸与したりする。

ただ、少しでも来てほしいという思いもあるので対応している。

⦿部会員

それはわかるが、移住体験として来るのであればそういうものは自分で用意すればいいのではないか。

そこまでやるならお断りしてもいいと思う。

⦿市庁内部会部会長

仕事で来るのであればいいのだが、老後に都会を離れて生活するんだからいい環境の静かなところで暮らそうと言ったときに、おそらくニセコとかいろいろある中でなぜ登別を選ぶのか。

⦿部会員

登別にはコンドミニアムのような施設がない。

富良野や美瑛にはそういう施設があって宿泊費も安いし自炊もできるので、そこに長期で滞在する人もたくさんいる。

登別にそういう人をといっても話だけで、設備を作ろうとしない。

⦿事務局

今はさぎり湯の上がそういう形になっていて紹介している。

市内にも何件かウィークリーマンションが出来始めているので、何戸か確保して、市街での生活してもらおうとしている。

⦿部会員

誰かがやるだろうではなくて、多少は行政がお金を出さないといけない。

⦿部会員

これからは自分の家が空き家になる。

権利どうこうでなく、それを活用する方法を考えてもいいと思う。

⦿事務局

空き家バンクというものを自治体によっては持っているが、売れる物件であれば不動産会社を活用すればよく、流通に乗らない家がそこに回ってくる。

他のまちの状況を聞くと、出だしは登録や紹介もそれなりにあるが、尻つぼみになり成功事例は少ない。

私たちも研究はしているし何とか活用していきたいが、行政だけではなくて民間の力も借りてやっていきたいと思っている。

⦿部会員

富士町や常盤町など住宅街の真ん中に空き家ができて、それを貸し出すとしても、そんな場所には人は来ない。

やはり環境と利便性がよく、北海道らしい場所でないと。

⦿市庁内部会部会長

お客さんはやはり温泉になるのか。

⦿部会員

そのイメージが強い。

⦿市庁内部会部会長

温泉宿泊となると最低８千円はかかる。

例えば半月とか半年滞在するとしたら、登別は厳しいのか。

⦿部会員

登別だけでなく、他のまちは、たまに見るからいいのであって、いざ住むとした場合は多くの課題があると個人的に思う。

いかに魅力のあるまちを作っていくというのが目的だと思うので、どうにかしたいと思うのであれば行政が真剣さを我々民間に見えるようにやっていかないと、いくら論議をしても変わらないと思う。

行政がやることで民間もおのずと協力体制になっていくと思う。

まずはやる意識で、少しでもいいからやっていく姿勢を見せて一人二人でも定住・移住させていく。

温泉のお客さんたちは登別は最高だというが、ここに住みますかとなると、地元に家があるからとなる。

⦿市庁内部会部会長

この移住、定住がはじまった契機は都会の人口が多くなり、団塊世代が老後に都会では住みたくない、どこかへ行きたいという流れが全国的に起きたことで、その人たちはどこか住みよいところを選ぶとなれば、例えば北海道で言えばニセコや倶知安など、良い景色を見ながら暮らせて、土地もついてきて結構いいと大学教授などが住むまちもある。

その人たちが登別を選ぶためには何がないのか。

⦿部会員

このまちには海も山もある。

それを魅力あるものに作り替えていない。

お金を使うならそういうところにつかってほしいと思う。

長期滞在型となると登山したり海釣りしたり、そういう場所が登別にはあるから夏にひと月ぐらい滞在されることとなる。

さらに安い金額で住めるとなればそれは最高の魅力になる。

そうするためには民間ではできないことで、民間はまず収益が第一でそれがなければ動かない。

まずは行政が投資しないと、民間は投資しない。

⦿市庁内部会部会長

まちのイメージを高めるという意味で、富良野は昔何もなかったのに、ラベンダーを持ってきて油を取って、一時期流行ったけど価格が下がって皆やめた。

でも、残った人がもう一度頑張った結果が、今の観光資源で、それから映画祭が始まり、今はまちのイメージ自体が変わってしまった。

その様な背景もあり、富良野だったらペンション借りて住みたいというイメージの人も結構いると思う。

登別はどうしたらいいのでしょうか。

⦿部会員

温泉しかＰＲするものがない。

⦿事務局

成功事例として、釧路は気温が低いことと花粉がないという部分に着眼して都市圏にアピールしている。

釧路市は行政では一軒も物件を持っていなくて、対応しているホテルや不動産物件も決して安くない。

それでも魅力があって、大学教授や社会的地位の高い方が多いように感じた。

大学教授は地域で講座を行うなど地域還元をしながら取り組んでいる。

都会の人の価値観と言うのは私たちにはわかりにくいのかもしれないので、登別にも打って出る方法はあるかもしれない。

今回大阪を選んだのも、東京よりも北海道にあこがれがあると感じ選択をした。

⦿部会員

フェアにはどのような人が来たのか。

⦿事務局

間もなく定年する方やした直後の方が多い。

だが、伊達市は医療費で大変だという話もある。

考え方として、今までは完全移住を目指すことに軸足があったが、ショートステイと言うか二地域居住、三か月ほどこちらで暮らすとか、もともと在宅勤務できるような人や研究者などが夏は北海道で生活して冬は地元に戻るような、そういう形の人口の増やし方もあるのかなと思う。

⦿部会員

北海道に移住したという人から話があって、最初は夏だけ来て冬は帰ると言っていたが、結局こちらの方が自分の畑も持てるし良いということで、今は伊達に住んでいる。

そういうものが登別にあるか。

⦿市庁内部会部会長

最後に定住する地としてのイメージを持ってもらい、登別を選んでもらうためには何かというのが今回の一つのテーマ。

来た人たちとどういう交流をして、その人たちの文化を登別に生かすかと言うのが二つ目のテーマだと思う。

そのあたりで皆さんの知恵をお借りしたい。

⦿部会員

移住したいという人が来て、市の交流活動専門員の方が私のところに連れてきました。

夏の間住めるところがないかということで物件を紹介したら、登別にこんなにいいところがあるとは知らなかったと言って、地主とも話をつけて帰った。

結局は銀行の融資を受けようとしたら駄目だということで断念したのだが、こういう場合は、市で融資してあげることはできないのか。

⦿事務局

何件か成功しそうな方々もいて、登別地区のちょっと人里離れてはいるが、寂しくないようなところで喫茶店をやりたいという方もいる。

続けていると人との繋がりもできていく。

⦿部会員

室蘭の人は登別はいいなといっている。

その理由は温泉の半額券や時代村やマリンパークの割引券で、あれだけでも住もうかなと言う人はいる。

⦿部会員

登別はいいよね、毎日温泉入れるよねというイメージだから、それを生かせるようなものはないか。

少しでもイメージに近づけるという方策がいるのではないか。

⦿市庁内部会部会長

登別温泉の歴史の中で日帰り温泉はほとんどやっていない。

他のまちなら経営が厳しいから五百円でもいいから欲しいとなるけど、登別は泊まるのが当たり前だし、値段も高い。

⦿事務局

カルルスならば多少はあると思う。

⦿部会員

いつでも温泉に入れるというイメージがあるなら、そのようなものを作るのも手だと思う。

⦿事務局

今はさぎり湯上の物件は入浴し放題なので、温泉に魅力を感じる方は行ってみたいと思ってくれる。

⦿市庁内部会部会長

市民に親しんでもらえる登別温泉、市民が市外の方に自慢できるような日帰り温泉があってもいい。

⦿市庁内部会部会長

温泉が銭湯並みの料金で入れるところは一か所あるが。

⦿部会員

まだ十分じゃないし、利用もあまりされていない。

⦿部会員

他の温泉旅館にその金額で入れるかとなれば難しい。

⦿市庁内部会部会長

登別温泉も観光客向けだから、市民相手ではない。

⦿部会員

移住定住者を受け入れるためには、そういうイメージをつくってやらないと。

⦿市庁内部会部会長

登別の一番のブランドは温泉だが、それが市民向けに生かされていないのかもしれない。

⦿部会員

登別温泉の組合の人にも、観光のまち登別について検討してもらうのはどうか。

温泉だけではなく、まちづくりとして、どう考えているのかを聞いてみたい。

市民は本当に観光のまちにしようと考えている。

⦿部会長

私は団塊の世代の走りで、新日鉄にいた。

同期の半分ぐらいは名古屋や大分に転勤して、戻ってくる人はほとんどいない。

北海道に戻ってきたとしても、札幌や苫小牧に行ってしまう。

そのことを考えたら、自分で住んでいたところの魅力をあまり感じていないのかなと思う。

ただ、若くして戻ってくる人もいて、それは何を思って戻ってきたのか。

最初に話のあった、定住移住を団塊の世代から現役に移行しているというのであれば、そのためにはどうすればいいのかということであれば、もう少し具体的にこういうものがあるからという絞り方はできないのか。

⦿市庁内部会部会長

登別にも素材はたくさんあって、磨いた素材として歴史的にみると温泉がある。

登別のイメージとして愛着を持ってもらう、市民も登別に住みたいと思うような魅力づくりが足りないということなのか。

地域資源を十分に生かして、温泉はあるけど、周りからも住んでみたい、雰囲気がいいなどと言われる磨かれた資源がない。

⦿部会員

①でキーワードを何にするかということなのですが。

⦿事務局

今は我々の方でＰＲや住むとなれば遠隔地から不動産屋へ直接行けるわけではないので繋いであげたりなど、そういうサポートはできると思います。

あとはまちの魅力を作っていくというのも当然我々で考えなければならないものと考えている。

自分が住んでいると魅力はわかりづらい。

札幌にいたころは登別まできて釣りをしたが、登別に戻ってきたらしなくなってしまって、ないものねだりなところがあったりする。

富良野出身だけどラベンダーを見たことがないという人もいる。

縁故と言うか人のつながりがあるから、親せきがいるから移住してきたという人もいるので、その人にとっての価値観になりますが、多様性をいくつ打ち出せるかになると思う。

⦿市庁内部会部会長

まちによって、自分のまちに誇りを持っている雰囲気のあるまちがある。

⦿部会員

乗馬クラブもあるし、オフロードもできる。

それをもっとＰＲしないと、市民はあるんだな程度にしか思わないし、ＰＲしようとする人もいない。

⦿事務局

パンフレットには、趣味の部分や市民活動について、市民活動により人のつながりは大丈夫ですよなど、できるだけ詰め込んでつもりではある。

これからも情報は追加していこうと思っている。

今まではワンストップ窓口と言うものを作って、ニーズのある方がこちらに連絡をくれるという受け身の移住だったが、今年度からはフェアに出展して、営業をかけるスタイル

にしたいと思っている。
　今回は初めて５０人というお客様の台帳ができたので、あまり興味のない人も交じっているのも事実だが、積極的にフォローしていきたいと思います。
　また来年も行きたいと思いますので、アンケートなどを見ながら必要な情報を追加していきたい。

⦿市庁内部会部会長
　登別と言えば温泉となるけど、観光でどこがいいと聞かれたらどういうところがあるのか。

⦿部会員
　私の仕事だと、大体の観光客に見る場所はありますかと聞かれる。
　食よりも先に見るところで、倶多楽湖に行くけどあれは白老のもので、あとはその流れで日和山に行って大湯沼行くだけでも十分喜びます。
　自分たちは地元なので何とも思わないが、こんなに魅力があると再認識する。

⦿部会員
　朝市と道の駅を一つにしたものを作って、温泉から客を呼び、そこがあることでいろいろな人との交流ができれば市内経済が潤う。

⦿市庁内部会部会長
　湯布院地区のまちづくりでは、温泉経営者が参加して、一緒に景観を作り、本当にまちと温泉旅館が一体になった取組みをしている。
　ただ、その話を聞いて思ったのは、登別の温泉はオーナーが多く、あちらは老舗旅館が多いが、登別のホテルは、他のまちでも営業していて、トップが登別だけにこだわっていなく視野が広い。
　登別だけにというのは難しいと感じたことがある。

⦿部会員
　温泉のオーナーは自分の利益だけを考えていて、まちに還元しようなどとは考えていないように感じる。

⦿市庁内部会部会長
　まちの魅力にはつながりにくい。

⦿事務局

温泉、観光は来てもらうきっかけとしてはすごくいい部分なのですが、実際に住みましょうとなった時に温泉の魅力だけで大丈夫なのか。

もちろん価値観の違いはありますが、このまちに足りないものは何があるのでしょうか。

やはり温泉に特化することなのでしょうか。

⦿部会員

周りの人は皆そう思っているが、まずは温泉とかは抜きにして、なぜ北海道に移住するかと言うのを考えた方がいいと思う。

あちらの人が来る条件としてまずは気候とそして食べ物、この２点かなと思う。

絶対条件が気候なのであちらから来るのだが、登別に関しては雨が多いから、そこは難しい。

⦿事務局

先ほど話にでた交流活動専門員も、神戸から来ているのだが、普通のスーパーで売っている野菜や魚でも十分おいしいと感じるそうです。

自分たちはそれが当たり前ですが、普通のスーパーの食材でも胸を張れると思う。

⦿事務局

移住で見に来た方に交流活動専門員が市内を案内しているが、我々ならば富岸や新生地区が家も多くて、住むのならと言う話をしているのですが、都会と大差がないからといって登別地区だったり千歳町などの自然が豊かなところに興味を示すケースもあります。

とはいっても車を運転できなくなった時のためにバスや公共交通機関がほしいというニーズはある。

⦿部会員

私の家に一か月ホームステイしたデンマークの方が、三日間自由な時間をくれと言われて、何をするのか聞いたら倶多楽湖まで歩いていくと言う。

テントを持っていって泊まって、のんびりしてきたと言っていたが、地元の人にはわからないが、そういった楽しみ方がある。

⦿部会員

本州の人が北海道の山を好むのはなぜかと言ったら、本州には三千メートル級の山がたくさんあるのに対して北海道は２千メートル級だけど、本州は一千メートルぐらいまで車で行ける。

北海道の山はほとんどが麓から歩いて登るからいいらしい。

そういう人間の心理を突くような魅力は何があるかということを探らないと、ありきたりな、他のまちにもあるようなものをいかに美しく見せても意味がない。

⦿事務局

もしかしたら、登別市の住民の間で話をしても答えが出しにくいのかもしれません。

⦿部会員

そうはいっても、地元の人間が考えなければ、誰もわからない。

⦿市庁内部会部会長

受け入れをしてから、その方々との交流はどうするか。ただ来てくれてありがとうだけで終わるのか。

⦿部会員

取組みとしては、実際に来た人に聞かないとわからないのではないか。

⦿事務局

観光に軸足を置いている人には、登別を楽しんで帰ってもらえればいいかなと思うのですが、移住を考えてくれていると思える人ならば、いろいろ話をして、趣味の話を聞ければ、市民活動センターでサークルがあれば紹介してあげて、友達がすぐにできるなど、住みやすいようにしていきたいと考えている。

⦿市庁内部会部会長

例えば、町内会はそのような方たちが来た場合、フォローとかは可能ですか。

⦿部会員

まずは町内会に入ってくれるだろうかと考える。

それよりも市民の意識を変えないと。人口が何年になったら４万人台になりますなどの数字は出さないで、５万人は確保しますと、そのために皆で何とかしましょうというのならわかるけど、減るのが当たり前のように書かれたら誰も努力しない。

⦿部会員

うちの近所にも毎年夏だけ来る人がいる。

どの部分に魅力を感じているのか聞いてみたい。

⦿事務局

大阪の人はまずは避暑と考える方が多いようです。

釧路市は花粉が無いまちと言う売り込みが効果があったと聞いています。

完全移住だけではなくて、ショートステイや２地域居住も視野に入れるべきだと考えています。

⦿部会員

人口の増減だけにこだわらないで、そういう方に来てもらう考えかたも効果的だと思う。

⦿事務局

我々は交流人口と呼ぶのですが、人口としては増えなくても、温泉に何百万人も来てくれるのであれば、一年３６５日で割れば人口として八千人分の価値はあるというような考え方もある。

交流人口を増やしていくこともまちの元気につながるのかなと考えている。

そのためには、民間も儲からないところには参入しないのは確かだが、釧路のように民間だけでの成功例もありますので、効果的な取組みを提案していきたい。

⦿部会員

一人や二人の交流人口は微々たるものだろうけど、十人二十人なら商店街もばかにならない。

⦿事務局

釧路で、祖父母が来て、良いまちだからと親族を呼んで、多くの交流人口につながったというケースもあると聞いている。

孫が来れば孫のために買い物もするし、それもありだと思う。

⦿部会員

市民の全員が登別に人がどのようにしたら来るのかという気持ちでいないとだめで、例えば静岡に弟と妹がいるが、北海道に帰って来いと言っているけど移住には至らない。

そうは言っても、弟は奥さん連れて年一回帰ってきます。

そうすると、食事がおいしいし、何となく人間関係がおおらかで落ち着くというし、気候もいい。

まるで北海道に来るために働いているみたいだと言っていたが、今は退職して静岡にいる。

そのように市民みんなが家族や親せきに声掛けをする運動を起こす、ＰＲ作戦のような名前を付けて運動をしてみればいいのではないか。

⦿事務局

市民全員で営業するということですね。

⦿部会員

移住促進協議会と言うものがあるのですか。

⦿事務局

北海道移住促進協議会というものがあり、そこに加盟していると情報提供をいただけたり、フェアなどへの出店ができます。

ホームページやポータルサイトも準備されており、そこで色々なまちの情報を発信できますので、移住を希望する人の多くはそこから情報を得ている状況にあります。

⦿市庁内部会部会長

次の定住自立圏の関係に移りたいと思います。

近隣自治体と協力してまちの魅力を高めていくということで、室蘭が中心市として、一つのまちでは抱えきれないものを中心市と協力しながら施策を推進してやっていこうという取組みです。

⦿事務局

結構、賛否両論がありまして、例えば登別は財政的に厳しいから中心市である室蘭の都市基盤を利用させていただくという時に、借りることができるのでまちの魅力は変わらないと言ったときに、そうだねと賛成する人もいれば、このまちにその施設がないのはどういうことだという人もいる。

それは図書館や市民会館、プールなどで考えて見てほしいのですが。

ただ、登別はまだ五万人いて、財政的にまだしばらくは耐えられるかもしれないですが、耐えられない自治体は増えてきているという中で、このまま都市機能を失っていけば、まちの魅力低下につながり、人口流出するだけとなってしまう。

後ろ向きと言われればそうかもしれないが、何とか力を合わせて前向きにやっていこうと捉えてくれる人もいる。

⦿市庁内部会部会長

例えばゴミ処理の問題があって、クリンクルセンターも、将来は老朽化に伴って新しく作らなければいけない時が来ます。

人口が減ってきて財政が厳しくなってきたときに、本当に一市だけで造れるのかとなる。

そういった部分で役割分担は協力し合いながらやらなければならない。

⦿事務局

ただ、現時点では建物を建てられないので室蘭市のお世話になりましょうという取り組みはありません。

わかりやすい形としては、登別には総合病院が少ないので救急搬送など世話になっているところがありますが、どちらかといえば、定住自立圏と言うよりは長い歴史の中で協力関係ができた。

⦿市庁内部会部会長

昔は国立病院など室蘭に負けないくらい病院があったので、あえて私立病院に頼る必要はなかったけど、最近はそういう傾向が出ている。

⦿事務局

我々のスタンスとしては室蘭と協力しつつ、可能な範囲で負担を減らすというところですので、直接的に市民サービスの低下を招くようなことをやるつもりは今のところはありません。

室蘭市は、このあたりで一番人口のある総合振興局も持っているまちですので、我々としても拒絶するのではなく、うまくやっていこうというところです。

⦿部会員

このまえ用事があって小樽に行ったときに、夜にタクシーでまちに出るときに聞いたら、小樽の人口は１３万人を切ったと言っていた。

タクシー業者も夜は暇だという話で、なぜかと考えたら、小樽も室蘭と同じようにビジネスホテルが少ない。

そして、観光地はいろいろあるけど、昼間はバスで観光客が集まるが、夜になると札幌方面に行ってしまう。

だから夜が寂しいし、ある意味で通過点のまちなのかなと感じた。

⦿事務局

長く駐車できる駐車場もないから、用事を済ませたら移動してしまうかもしれない。

⦿部会員

小樽のまちで感心したところは、室蘭登別は地元の個人商店は結構やめていっているが、小樽はかなり営業している。

⦿部会員

今、都会は個人商店が復帰してきている、野菜専門店とかも出来てきている。

先日、テレビで特集していたが、あまり場所を取らず、新鮮で安く、スーパーにはない特異性がある。

店主と話しながら買い物できるとか、昔の八百屋のような店が流行ってきている。

魚を３つに切って買うとかそういう買い物ができる店がどんどん広がっていく。

⦿事務局

我々でできることとしては、空き店舗補助を行っていて、温泉のキャンドルショップなど個人商店のチャレンジが出てきている。

⦿市庁内部会部会長

新聞に、旭川や帯広、釧路といった地域の拠点となるまちがあるけど、人を保てるまちとそうでないまちがあると載っていた。それはなぜだろうと思ったのだが、定住させておける魅力があるのだと思う。

⦿事務局

簡単に言ってしまうと雇用なのでしょうが、まだ登別は室蘭で働いて登別に住んでくれることが多くて、恵まれているのかもしれない。

⦿部会員

今朝の新聞に、札幌圏の人口流出入の数値が載っていて、どうしてこうなるのかなと思った。

⦿市庁内部会部会長

男女で分けてみると、女性の流出が多くて男性は減らないとあり、分析すると特徴が出ているようだ。

⦿部会員

温泉には女性の働き場が圧倒的に多いのだから、そういうところをアピールしたらいい。

⦿事務局

ただ、意外と観光系の専門学校ですとか専攻の大学はあるので、そこを目指している人は結構いると思う。

そのような人を登別に持ってくるというのも手だと思う。

最近だとなかなか正社員の採用が少ないとか厳しい経営状況もあるとは思います。

話を戻しますが、室蘭とうまく提携して登別を良くしていくというのは反対される方はいないと思いますがどうですか。

⦿市庁内部会部会長
　どのような部分で提携して高めたらいいのか。

⦿部会員
　室蘭には大きな病院がたくさんある。

⦿事務局
　逆に、個人の病院をできるだけ建ててもらうことで、登別の方が新しい病院が多い。
　まず具合が悪い時に最初に行く町のお医者さんは登別の方が新しくてきれいなところが多いのではないかなとも思う。

⦿部会員
　歯医者も多い。

⦿事務局
　そうですね。
　ですので、本当に具合が悪い時には大病院にお世話になるけど、まちの暮らしやすさとしては登別も捨てたものではないと思う。

⦿市庁内部会部会長
　あと棲み分けとしてはどうですか。
　ベッドタウンとして登別は住みやすいのですか。

⦿部会員
　登別と比べると、室蘭は坂が多い。

⦿市庁内部会部会長
　昼間は室蘭で働いて、夜と休日は登別で暮らす方が多い現状にある。

⦿部会員
　そういう意味では、暮らしやすい方だと思う。
　除雪で言えば登別は丁寧、室蘭は雑に感じる。
　そういう面も多々あるので、暮らしやすさをアピールしていいと思う。

⦿事務局
　もっと胸を張って市民も我々もアピールしていくのがポイントですか。

⦿部会員

住むのは登別、働くのは室蘭。

⦿市庁内部会部会長

労働力として登別の人間を活用しようという選択を室蘭に持ってもらう。

うちは室蘭で職場を求めながら登別で安全安心で住みよい暮らしをしてくださいとアピールをする。

⦿部会員

仕事の面は室蘭にまかせっきりではなくて、こちらでも雇用や企業誘致も考えていく必要はある。

⦿部会員

若山のマックスバリュの向かいあたりに団地を作って、新生に新しい駅を作ればいい。

⦿市庁内部会部会長

企業誘致をしても、公害の出ないような企業ならいいが、工場を持ってくるとなれば結構な抵抗があるかもしれない。

⦿部会員

とりあえず働き口を増やす。

飲食店を増やしていくのもよい。

そうすれば逆転現象が起きて他からこちらへ食べに来ようとなって、お金が市内に落ちる。

新生や若草のあたりはいいが、残念なことに飲食店がばらばらで、本当はある程度固まってあれば使い勝手もいい。

街中でバイキングレストランを経営したいという人の話は聞いたことがあるが、そういう企業が増えればパートの需要も増える。

大きな工場だと土地も必要なので、飲食店を対象とするのもよいのではないか。

⦿市庁内部会部会長

本当は製造業が一番正規雇用を生んでいいのだろうけど、現実的に土地もないしなかなか難しい。

⦿事務局

苫小牧の沼ノ端あたりがそのような状況ですね。

今、家の建ち方がすごい。

⦿市庁内部会部会長

あの辺はそれなりに土地があって、そうなる様に作っている。

最近の雇用統計を見るとすごくよくなってはいるが、中身がとにかくパートで有効求人倍率を稼いでいる。

正規雇用は本当に厳しい。

⦿部会員

社会保険のこととか考えると、どうしてもパートが多くなる。

⦿事務局

室蘭市と提携するというのはご理解いただけたのかなと思いますので、粛々と行政としてやっていきたい。

移住に関しては前回に引き続き色々と思いを頂けました。

もっと市民レベルで営業をかけていくという意見も頂いたので、そのあたりも表現していけたらと思います。

大体この段落は終わったと思いますので、次回は次に進むということでよろしいでしょうか。

次回の予告になるのですが、第３節と言うことで【進み続けるまちづくりのための基盤づくり】というところがありまして、これは新規の掲載になります。

何かといいますと市役所として当たり前にやっている事務などのことを書いていて、今まで基本計画に定義づけられていなかったわけではないですが、公共施設の管理や事務執行というのは、これから職員も少なくなって、市民の目も厳しくなっているので、しっかり取り組んでいかなければならないことの一つですので、ここにわかりやすく三つほど上げて体系図にしたということです。

もしかするとご意見を頂きづらいところなのかもしれないですが、できるだけ歳入を増やして歳出を抑えて財政状況も何とかしましょう、市有の土地とかも売れるものは売り必要なものはそのままとか、公共施設についても使えるものは使っていくというのが今の基本ですが、そうはいっても老朽化が進んでいる。

ここはどちらかといえば町内会の皆さんに人事・行政管理グループの方でご説明しているジャンルの話になるのですが、そこを体系図として位置づけました。

今の我々の状況を簡単に説明させていただいて、皆さんに意見を頂いて、もし時間が早く終わるようでしたら、懸案となっているまちづくりの部分を、今度はフリートークではなく体系図を見ながら進めていくとまた違った切り口になるのかと思いますので、次回はこのあたりを行いたいと思います。

次回は前回お話しさせていただいた１１月４日（火）に予定通り行いたいと思います。

⦿部会長

それでは、今日の部会は終了したいと思います。お疲れ様でした。